

仙北市の胃がん検診(胃内視鏡検査)を受ける方へ

胃がんは日本のがん死亡の上位に！

① 日本人の胃がんによる死亡数は肺がん、大腸がん、膵臓がんに次いで**第4位**

(2024年人口動態統計)

② 早い段階では、**自覚症状がほとんどありません**

かなり進行していても症状がない場合もあります

③ 早い段階で見つけることができれば、**ほぼ治す**^{※1}ことができます

※1 ここでいう「治る」とは診断時からの5年相対生存率です
相対生存率とは、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数字です

胃がん検診の流れ

胃内視鏡検査 (口または鼻から内視鏡を入れ、直接胃の内部を観察する検査)

- ・ 病変がある場合、その部分をつまみ取り、細胞の検査(生検)を行うこともあります。
※細胞の検査をした場合は、検診料金とは別に保険診療となります。
- ・ 細胞の検査結果および内視鏡画像から、検診結果を判定します。

約1か月程度で、仙北市から結果を自宅に送付します

異常なし

定期的に検診を受けましょう

- ・ 胃内視鏡検査：2年に1回 (51, 53, 55, 57, 59歳)
- ・ バリウム検査：1年に1回

胃がんの検診方法は、「問診」に加え、「胃部X線撮影検査(バリウム検査)」または「胃内視鏡検査」のいずれかです。男女ともに50歳以上の方が対象となっており、検診の間隔は2年に1度です。

※当分の間、胃部X線撮影検査は、40歳以上、1年に1度の実施も可能です。
厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」より

要精密検査

自覚症状がなくても 精密検査を必ず受けましょう

保険診療に
なります

再度、胃内視鏡検査などを行い、病変の有無や場所を確認します。また、胃の内部を見て、がんが疑われるところがあると、その部分をつまみ取り、病理検査(生検)で診断を確定します。

精密検査結果は、精度管理のため仙北市と胃がん検診を受診した機関にも情報が共有されます。

胃がん予防のポイント



■ 食生活を見直す

塩分の摂り過ぎは、胃がんのリスクを上げることが報告されています。また、野菜・果物の摂取量が少ないと、胃がんのリスクが高いことも報告されています。塩分の多い食品を食べ過ぎないようにし、バランスよく野菜・果物を摂取することで、胃がんを予防する効果が期待できます。

■ たばこは吸わない



日本人を対象とした研究の結果から、喫煙は胃がんのみならず、多くのがんに関連することが分かっています。受動喫煙も含め、たばこの煙を避けることはがん予防につながります。

■ ピロリ菌感染の有無を確認する



ヘリコバクターピロリ菌の感染が胃がんの原因のすべてではありませんが、ピロリ菌陽性の方が、陰性の人より危険性が高いことは明らかです。一度ピロリ菌感染の有無を調べ、感染している場合は、医療機関に相談しましょう。



こんな症状に要注意！

胃がん検診の結果が「異常なし」であっても、次のような症状がある場合には、検診を待たずに早めに医療機関を受診しましょう。

- みぞおちの痛み・不快感・違和感
- 胸やけ
- 吐き気・食欲不振
- 胃がんからの出血によっておこる貧血や黒い便



胃がん検診（バリウム検査および胃内視鏡検査）は、必ずがんが発見できるわけではありません。また、がんではないのに「要精密検査」となる場合もあります。しかし、死亡率の減少効果があると国が認めている有効な検診ですので、定期的ながん検診を受けましょう。

問い合わせ先：仙北市保健課 電話 0187-43-2252